



## 四万十市橋梁メンテナンス研修会報告



高知県四万十市(森山副市長ほか土木関連部署)より、インフラ長寿命化センターで橋梁メンテナンス研修会を受け入れて欲しいとの依頼を受け

ました。新年度がスタートして間もなく、4月23日(金)16時~18時に工学研究科大会議室で研修会が開催されました。四万十市からは森山副市長以下5人、長崎大学工学研究科から松田センター長、奥松教授、山口准教授、佐々木准教授、西川准教授、杉本准教授、高橋特任研究員及び道守養成ユニットの会吉川会長が出席しました。

研修会のタイトルは、「効率的かつ効果的な橋梁メンテナンスの実現に向けて」とし、四万十市まちづくり課道路管理係から、四万十川にかかる沈下橋をはじめとする四万十市の道路状況と課題の説明がなされました。その後、職員の技術力の習得、職員による直営点検、職員による直営補修及びドローンなど先進機器・新技術導入へのプロセスと活用等に関して意見交換

がなされました。アドバイスとしては、

◎インフラメンテナンス実施には自治体内に技術力を持ったリーダーとなる職員が必要であること

◎自治体内の協力体制の整備、正確な現状把握が必要であること

◎補修にはノウハウの蓄積が必要であることが挙げられました。

橋梁メンテナンスについて、若い先生方の積極的な発言が多くあり、四万十市にとっても参考となる有意義な研修会となりました。



意見交換の様子

## 土木学会「インフラパートナー合同オンライン交流会」

「つながり」

土木学会(会長 家田仁)は、2021年4月より2つの新規プロジェクトを始動させました。1つ目は、地域に根差したより密接な『連携』という観点から、インフラに関わる市民・団体とパートナーシップ(合意書)を結び、土木学会各支部を交え、連携を図る『インフラパートナー制度』です。2つ目は、より多くの方々との『つながり』という観点から、“伝えること”から“伝わること”を重視した、土木をカジュアルに噛み砕き、ユニークな形で届ける土木学会web情報誌『from DOBOKU』です。人々の暮らしを支える“土木”および“インフラ”が人々にとってより身近な存在となるよう、この2つのプロジェクトが、土木界全体でのひらかれた交流の場となることを目指すものです。

インフラパートナー合同オンライン交流会は5月18日(火)10時~12時にかけて開催されました。初回に登録された16団体による自己紹介と活動報告がなされました。九州地区から「噂の土木応援チームデミーとマツ」と「道守養成ユニットの会」が登録され、道守養成ユニットの会

道守養成ユニットの会の活動紹介



道守養成ユニットの会  
2017年11月設置



の紹介は山本尚次事務局員が担当しました。また、web 情報誌『from DOBOKU』の紹介は編集委員長のデミーとマツによってなされました。2つの新規プロジェクトを立ち上げた家田仁会長の思いが詰まった交流会となりました。具体的な連携した活動はこれからですが、道守養成ユニットの会は積極的に参画をしていきたいと考えています。

**ありがとう**



**～医療従事者の皆さんへ感謝を込めて～**

道守養成ユニットの会は、5月13日の県下全域レベル5引き上げ医療危機事態宣言の発出を受けて、コロナ禍で献身的に取り組む医療従事者に感謝の気持ちを伝えようと飲料水等の提供をしました。



長崎地域部会 5月28日



佐世保地域部会 6月10日



県央地域部会 6月17日



島原地域部会 6月9日



上五島地域部会 6月30日



下五島地域部会 6月15日



対馬地域部会 7月2日



壱岐地域部会 6月29日

地域名	月日	贈呈先	贈呈品・量
長崎	5月28日	長崎市医師会	清涼飲料水 500cc 360本
佐世保	6月10日	佐世保市医師会	清涼飲料水 500cc 300本
県央	6月17日	諫早医師会	清涼飲料水 500cc 300本
島原	6月9日	島原市医師会, 南高医師会	清涼飲料水 500cc 120本 清涼飲料水 500cc 120本
上五島	6月30日	上五島病院	清涼飲料水 500cc 240本
下五島	6月15日	五島中央病院	清涼飲料水 500cc 360本
対馬	7月2日	対馬市医師会	清涼飲料水 500cc 288本
壱岐	6月29日	長崎県壱岐病院	栄養ドリンク 300本

先ず、5月28日(金)に吉川國夫会長と三根孝紹長崎地域部会長が長崎市医師会館を訪れ長崎市医師会会長に寄贈の目録を手渡しました。この時に、「インフラの町医者」を目指す道守の活動の目的や医療従事者への感謝の思いを伝えました。

長崎以外の地域部会でも同様な取り組みを行うことにし、各地域部会が活動しやすいように、以下のような【趣意書】を作成しました。

#### 【趣意書】

私たちは長崎大学大学院工学研究科インフラ長寿命化センターにおいて社会インフラの橋梁、トンネル、道路構造物等の点検診断技術を学び、『観光ナガサキを支える道守養成ユニット』で2008年10月より活動を開始し、“インフラの町医者”となるべく研鑽を重ねております。現在の会員数は約300名で県市町職員をはじめ建設業、建設コンサルタント業等に携わる多数の業者も参加しております。組織は県内8地域部会で構成され長崎、佐世保、県央、島原、上五島、下五島、対馬及び壱岐で独自の活動を行っております。主に道路点検美化活動と長崎県橋梁合同点検、市町橋梁合同点検を実施してはりましたが、新型コロナの影響により主だった活動を控えている状況です。

終息の期待ができるワクチン接種が始まっており、ますます医療従事者への負担が増加するものと認識しております。日々、医療従事者のお立場は厳しい状況に置かれるばかりか、ご自身の罹患の恐れもあるなかで静かにご対応なさる皆様へ感謝の気持ちをお伝えしたく本ユニット会員総意により、今回添付の品を贈呈するものであります。未だ先が見通せる状況ではありませんが、平穏な日々が戻ることを祈願致します。

5月28日～7月2日にかけて、表に示すとおり8地域部会すべてで寄贈活動ができました。贈呈先からは感謝の礼状をいただいています。道守養成ユニットの会の最初の社会活動となりました。



# 道路見守り隊！（7月17日 道路清掃活動）

安全確認！

7月17日(土)に長崎地域部会の第1回道路見守り活動を行いました。コロナウィルスの感染状況がステージ2になり、7か月ぶりに道路見守り活動が開催できました。

いつものメンバー21人(うち子供3人)が集まりました。子供の頑張りにより大人から称賛の声が上がっていました。普段よりも見守りのコースを短くして、密にならないようにしての開催でした。普段の活動ができることに感謝しながらの活動になりました。



清掃活動の様子



集合写真

## ★センターより★

清掃活動中に見つけた道路インフラの異常については、通報をお願いいたします。



感染症対策を取り、可能なことを少しずつ！

## 「道守養成ユニットの会」理事会・総会報告

「道守養成ユニットの会」、2021年度で5年目を迎えました。県内8地域に分けた地域部会を中核として県内各地で道守活動ができる体制が整ってまいりました。2020年からはコロナ禍の中で活動に大きな制約を受けてきましたが、創意工夫をしながら道守の活動を継続しています。会では、これまで毎年6月頃に理事会・通常総会・特別講演会を開催してきましたが、今年度もイベント等の実施ができない状況になり、去る6月17日(木)に理事会を開催しました。理事会で役員の一部交代、会員の入退会状況、2020年度の行事報告、2020年度の会計報告、2021年度の行事計画及び2021年度の予算を審議しました。

例年開催している大学内での通常総会及び特別講演会については中止としましたが、会の議決機関は総会であるため、第28条の書面表決を適用し、メール議決を8月上旬に実施しました。

承認された新たな内容は以下のとおりです。

- ①役員については、空席となっていた対馬地域部会長・理事に江頭康治氏(長崎県職員)が就任。長崎地域部会長を兼任していた三根孝紹副会長が副会長に専任。その後任として、馬渡真奈美氏(長崎県職員)が理事になった上で長崎地域部会長に着きました。アドバイザーに出水享長崎大学技術職員が就任しました。
- ②本年度の活動として、医療従事者に感謝を伝える取り組みを既に実施。
- ③昨年延期になったインフラメンテナンス国民会議九州フォーラム in ながさき 2021 への参画。

コロナウィルス感染症の今後状況が不明ですが、これまでの活動が継続できるとの見通しに立って、事業計画と予算を作成しています。



道守UNIT  
道守UNIT

# 新たな一歩～佐世保市との技術支援に関する打ち合わせ会開催～

佐世保市が管理する橋梁の定期点検を市職員が実施するにあたっての技術支援依頼に関する打ち合わせ会が、9月21日(火)に長崎大学で開催されました。佐世保市土木部道路維持課4人とインフラ長寿命化センターから松田浩センター長他5人が出席しました。佐世保市の提案は以下のように要約されます。



## 1.目的

土木施設の老朽化対策として、佐世保が管理する橋梁のうち、一部の橋梁について職員が直営で定期点検を行うにあたり、現場点検から橋梁診断及び補修工法等の助言等を受けるための技術支援の協力体制を構築したい。

## 2.背景

佐世保市が管理する橋梁は1,067橋で5年に1回の頻度で橋梁の定期点検を実施することを令和元年度から2巡目の点検に着手。これまで市が実施した定期点検は全て外部委託してきたが、今後も継続実施しなければならない中、健全性に関わらず、全橋梁を外部委託するのか、点検のあり方について検討する必要がある、経験豊富な団塊世代の退職による技術力低下への懸念、さらに若手技術職員への技術の伝承と全体の技術力向上の課題がある。



## 3.具体的な取り組み

### ①市職員が直営で橋梁定期点検を実施

職員が橋梁の定期点検を実施するにあたっては1巡目の結果から、比較的健全度が高く、はしご等で点検が可能な小規模の橋梁(約380橋、1年あたり約80橋を想定)を対象に、直営点検を実施する計画。

### ②長崎大学インフラ長寿命化センターへ要請したい技術支援

職員が橋梁点検を実施する際、可能であれば現場へ同行して、実際に点検の手法から記録までの指導及び助言を受けたい。また、点検結果を基に、職員が橋梁診断を行い、その診断結果に対する評価(チェック)及び補修工法等の技術的助言を受けたい。

## 4.期待する効果

職員が実際に現場で経験を積み、現場対応力を養う機会となり、職員の技術力向上が期待できる。

佐世保市では、職員の直営点検に向けて2020年度から道守補コースの受講を開始しています。意見交換を行った結果、点検現場での指導は経験豊富な道守認定者に担当してもらうこと、大学が点検結果の評価や補修工法等の技術支援等を支援することが確認されました。ただし、補修済みの橋梁の評価や問題がある橋梁の対策等の研究や技術指導が必要な視点も加えることが追加されました。

今後、佐世保市は具体的な計画を作るとともに、大学との維持管理に関する連携・協力協定を今年度中に締結することになりました。

## 歩みは止めない



例年の9月～10月は道守養成講座の開催中で、インフラ長寿命化センターは受講者の皆様、講師の先生方で賑やかな時期でした。しかし、今年は一変してインフラ長寿命化センターは静かそのものです。8月お盆明けから開催予定だった工業高校インフラ体験実習の中止、道守補コースの延期、特定道守コースは中止となりました。9月末の緊急事態宣言の解除後にコロナウィルス感染症の状況を踏まえて、今後の養成講座開催を待っているところです。今年も、長崎、関西、宮崎地区の受講生募集に定員を上回る応募をしていただきました。無事に開催できることを期待しながら準備を進めています。

4月以降開催を予定していた三者合同点検説明会は書面説明になり、5月連休明けの長崎地域部会の道路見守り活動も中止になりました。7月17日の道路見守り活動は開催でき、唯一の活動となりました。皆様が集まったの活動は制限されましたが、この間オンライン会議や人数を絞った会議は継続しており、将来に向けての活動の歩みは止めていません。

道守認定者の皆様と大学が連携して、全国から評価が高い長崎発の道守システムを継続・発展させなければと認識しています。センターはその拠点です。皆様のご意見と来訪をお待ちしています。

道守養成ユニット事務局



## 編集後記・養成講座スタッフの紹介

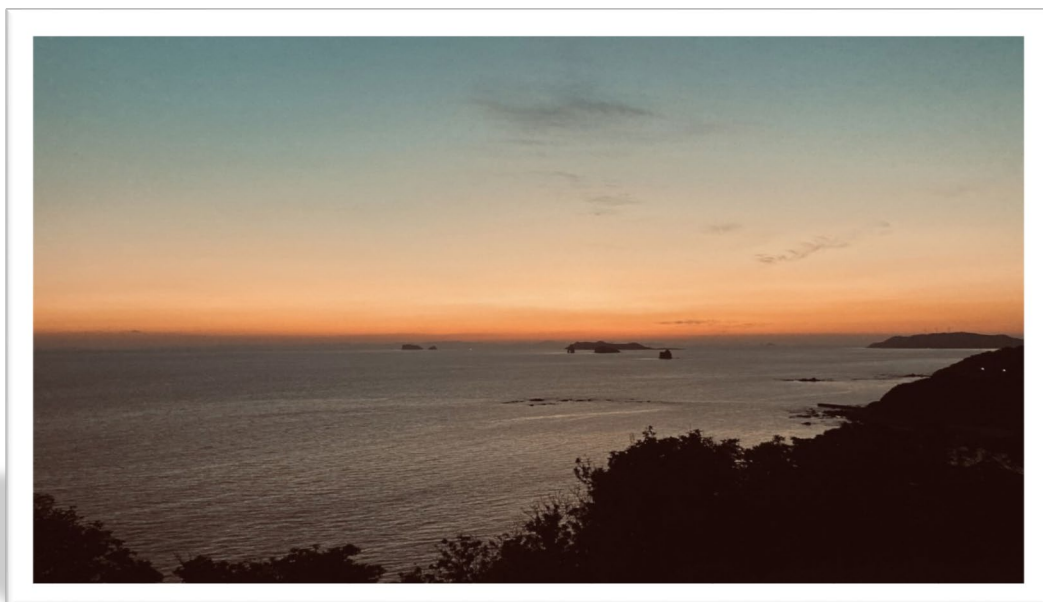
はじめまして。8月よりインフラ長寿命化センターで勤務しております 西村 航（工学部学生）です。

今年の新たな試みとしてYoutubeチャンネル「道守養成講座」をひっそりと始めています。動画の数は少ないですが、ぜひ検索をして、ご覧になってみてください。

話は変わりますが、下の写真は道の駅「夕日が丘そとめ」での夕焼けの写真です。中々外に遊びに行けませんが、皆様もきれいな夕焼けを見て癒されてみてはいかがでしょうか。

それでは皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

（西村）



# 問合わせ先

長崎大学大学院工学研究科 インフラ長寿命化センター 道守養成事務局

〒852-8521 長崎市文教町1番14号 TEL 095-819-2880 FAX 095-819-2879

Mail: [michimori@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:michimori@ml.nagasaki-u.ac.jp)

● [インフラ長寿命化センターHP]

<http://ilem.jp>



● [Facebook]

<https://www.facebook.com/ilem.nagasaki>



● [道守ユニットの会 HP]

<https://www.michimori-unit.org/>

発行 2021.10.15